

第二十九回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 22 年 3 月 31 日 16：30～
開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー36F
C02 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、湯川れい子、富澤一誠（順不同・敬称略）
放送局側：5 名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告

- (1) ISP 事業、カラオケ事業の売却に関する報告
- (2) 制販一体施策の推進を目的とした組織改編に関する報告

2. 番組課題

「空間向けクラシック BGM」について

- 【審議対象番組】 D/H-60 salon classic (Instrumental)
A-21 ヒーリング・クラシック
C/G-24 モーニング・クラシック（小鳥の声入）

3. 番組審議

【審議委員】

どの番組も、年代別の区分けがされているように見受けられる。D/H-60 はほとんど近代の作曲家、A-21 は古典派でほとんどが第二楽章、C/G-24 は古典的なピアノ曲が多い。これらがどういう空間をターゲットにしているのか興味深い。

【放送局】

D/H-60 はハイブランドの店舗をターゲットにしている。透明感があり、鳴っていることがあまり意識されないサウンドを重視し、1890 年代の印象派の短い楽曲を選んだ。その結果、フランスの作曲家、ドビュッシー、サティなどが多くなり、同時代のイタリアや北欧の作曲家作品も集まってきた。

【審議委員】

D/H-60 は女性向けとしてよいのではないかと。ただし、クラシック好きのリスナーの嗜好ともぶつからないようにすべき。ロシアの作曲家が時々混ざっているが、統一感を出すために混ぜない方がよいのではないかと。

【審議委員】

A-21、C/G-24 は雰囲気重視という目的を達せられているのではないと思う。クラシック好きなリスナーの中にはベタ過ぎると感じたり、「ヒーリング～」 「モーニング～」というくり方を嫌う人もいると思うが、全体的にはよくできている。

【放送局】

D/H-60 はレアな音源も多く用いており、このチャンネルの投入により今まで使えなかった音源が使えるように

なった面もある。

【審議委員】

D/H-60 はハイブランドにもよいが、高級と大衆の中間層のバーなどの BGM にもよいだろう。また、無音を好む人（≒BGM をあまり好まない人）にも提案しやすいだろう。

【審議委員】

それぞれの立ち位置によって評価は異なるが、「空間向け」という切り口は非常に有効で、リスナーにもメリットがある。雰囲気重視しつつも、クラシック好きのリスナーにも作り手の工夫を感じさせるような番組を作っていくべきだろう。

【放送局】

TPO に応じて組み合わせで提案できるようなクラシック番組作りを目指す。放送事業への原点回帰、顧客満足度向上の推進を図るため、今後も USEN 音楽放送サービス全体の質向上に取り組んでいく。